

1992年8月16日(日) 2回戦 時間 2時間7分(13時12分～15時19分) 観衆 5万5千人 審判 田中/本郷/頼住/植村

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	盗塁	失策
星稜(石川)	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	1	1
明德義塾(高知)	0	2	1	0	0	0	0	0	×	3	2	3

星稜	投手	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
中 清水 雄一	2年	遊ゴ	遊ゴ	遊ゴ	遊ゴ	左安	左安			三ゴ	三ゴ
遊 林 和成	2	三ゴ		遊失		左安		三ゴ		遊ゴ	三ゴ
遊 山口 哲治	3	左三	左安	左飛	左飛			三ゴ		遊ゴ	三ゴ
三 松井 秀喜	主将 3	四球	四球	四球	四球			四球		遊ゴ	三ゴ
三 月岩 信成	3	三ゴ	捕横					三ゴ		遊ゴ	三ゴ
三 福角 元伸	3		遊ゴ			左安				遊ゴ	三ゴ
三 奥成 悟	3		四球			三振				遊ゴ	三ゴ
三 竹森 建策	2		二ゴ		三ゴ	四球		一右		遊ゴ	三ゴ
三 北村 宣能	3		三振			三振				遊ゴ	三ゴ
三 松本 哲裕	3									遊ゴ	三ゴ
三 東 宏幸	1									遊ゴ	三ゴ

明德義塾	投手	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
遊 筒井 健一	主将 3年	三ゴ		四球		三振			振逃		振逃
三 重兼 知之	3	三振		三振		遊ゴ			投飛		投飛
三 河野 和洋	3	三振		中安		二ゴ			左飛		左飛
三 岡村 憲二	3		中安	四球			右飛		三ゴ		三ゴ
三 加用 貴彦	1		四球	右安			三ゴ				三ゴ
三 岡村 貴彦	1		四球	右安			三ゴ				三ゴ
三 青木 貞茂	3		一犠	三振							三振
三 久岡 一茂	3		左二								三振
三 橋本 玲	3		遊ゴ								三振
三 橋本 玲	3		遊ゴ								三振
三 橋本 玲	3		遊ゴ								三振
三 橋本 玲	3		遊ゴ								三振
三 橋本 玲	3		遊ゴ								三振

松井の甲子園での成績

大会	対戦相手	スコア	打数	安打	打点	本塁打	三振	四死球	打率
第72回 全国選手権 (1年・4番一塁)	2回戦 ● 3-7 日大鶴ヶ丘(西東京)	3	0	0	0	0	1	0	.000
	2回戦 ○ 4-3 市沼津(静岡)	4	2	0	0	0	1	0	.500
第73回 全国選手権 (2年・4番三塁)	3回戦 ○ 4-3 竜ヶ崎一(茨城)	5	2	2	1	0	0	0	.400
	準々決勝 ○ 3-2 松商学園(長野)	2	0	0	0	2	2	0	.000
	準決勝 ● 1-7 大阪桐蔭(大阪)	4	0	0	0	1	0	0	.000
第64回 選抜 (3年・4番三塁)	1回戦 ○ 9-3 宮古(岩手)	4	4	7	2	0	1	1	1.000
	2回戦 ○ 4-0 堀越(東京)	4	1	2	1	1	0	0	.250
	準々決勝 ● 1-5 天理(奈良)	2	1	0	0	0	2	0	.500
第74回 全国選手権 (3年・4番三塁)	1回戦 ○ 11-0 長岡向陵(新潟)	4	1	2	0	0	1	1	.250
	2回戦 ● 2-3 明德義塾(高知)	0	0	0	0	0	5	0	.000
		10試合	32	11	13	4	5	12	.344

敬遠後メガホンなどが投げ込まれた

全国高校野球選手権大会の名場面を振り返る「あの夏」の第14シリーズ、1992年の第74回大会2回戦「明德義塾一星稜」は、7月30日まで計49回(原則火～土曜日に掲載)を予定しています。

あの夏 1992年 明德義塾 × 星稜 1



5打席連続敬遠の星稜松井

松井5敬遠 九回2死の祈り

暑さに緊張と興奮が重なる。むき出しの私の両腕に、汗が玉状になって噴き出した。あの夏、私は星稜の6番打者だった。2-3で迎えた九回表2死三塁。4番の松井が歩かされた。1年夏から4番に座り、高校通算59本塁打。優勝候補に挙げられたチームの中心だった。これで5打席連続の敬遠。「後続を抑えれば勝てる」。明德義塾バッテリーのメッセーじは明確だった。「もう一度チャンスが欲しい。私の後方、左翼方向から」。

「ワー」と歓声があがる。メガホンなど、色々な物がグラウンドに投げ込まれていた。試合が完全に止まった。それでも、月岩は打席に立ち続けた。私は呼んだ。「タム、中絶だ」。何度目か打て、よし、それなら、と。ただ、中断で全てが吹き消された。スタンドの相手へのヤジが、俺のものに聞こえた。月岩の焦燥が増幅する。

一方、マウンドの明德・河野にとっては、立ち直りのきつかけを作る間になった。「5回も敬遠して負けるわけにはいかない」と、心拍数も上がっていた。冷静に自分をコントロールできたかどうか。ひと呼吸置けた。月岩に集中でいいんだなと。

5万5千人の観客が詰めかかっている松井だけが別世界にいる。1、2度、静かに目を閉じる。「瞑想していた。俺は野球の神様はいると信じている。月岩が打てるような力を送って下さいと祈った」。プリーが再開すると、静から動に移る。初球に盗塁した。

「サインだった。自分が生還すれば、逆転だった」と松井。明德バッテリーはノーマウンドで二塁を渡した。「マウンドで陣を組んだとき、打者の指示を再確認した」。捕手の青木は明かす。

変化球で追い込まれ、カウント2-2からの5球目。外角低めの変化球に、月岩は泳ぎ気味にバットを出した。三ゴロ。一塁にヘッドスライディングをしたまま、しばらく動けなかった。

松井は三塁を回ったところまで、両ひざに手を付いた。「ああ、高校野球が終わった。星稜高校終了。俺たちの3年間は終わった。そう思っていたね」。

試合中から大会本部や朝日新聞社には、5打席連続敬遠を巡って千本を超える賛否の電話が相次いだ。試合後急ぎよ記者会見した大会委員長の牧野直隆・日本高校野球連盟会長は「走者がいる時、作戦として敬遠することはあるが、無走者の時には、正面から勝負して欲しかったと語った。この日、1度もバットを振ることなく、松井秀喜は伝説になった」。

このシリーズは星稜で松井のチームメイトだった福角元伸が担当します。

「ワー」と歓声があがる。メガホンなど、色々な物がグラウンドに投げ込まれていた。試合が完全に止まった。それでも、月岩は打席に立ち続けた。私は呼んだ。「タム、中絶だ」。何度目か打て、よし、それなら、と。ただ、中断で全てが吹き消された。スタンドの相手へのヤジが、俺のものに聞こえた。月岩の焦燥が増幅する。

一方、マウンドの明德・河野にとっては、立ち直りのきつかけを作る間になった。「5回も敬遠して負けるわけにはいかない」と、心拍数も上がっていた。冷静に自分をコントロールできたかどうか。ひと呼吸置けた。月岩に集中でいいんだなと。

5万5千人の観客が詰めかかっている松井だけが別世界にいる。1、2度、静かに目を閉じる。「瞑想していた。俺は野球の神様はいると信じている。月岩が打てるような力を送って下さいと祈った」。プリーが再開すると、静から動に移る。初球に盗塁した。

「サインだった。自分が生還すれば、逆転だった」と松井。明德バッテリーはノーマウンドで二塁を渡した。「マウンドで陣を組んだとき、打者の指示を再確認した」。捕手の青木は明かす。

変化球で追い込まれ、カウント2-2からの5球目。外角低めの変化球に、月岩は泳ぎ気味にバットを出した。三ゴロ。一塁にヘッドスライディングをしたまま、しばらく動けなかった。

松井は三塁を回ったところまで、両ひざに手を付いた。「ああ、高校野球が終わった。星稜高校終了。俺たちの3年間は終わった。そう思っていたね」。

試合中から大会本部や朝日新聞社には、5打席連続敬遠を巡って千本を超える賛否の電話が相次いだ。試合後急ぎよ記者会見した大会委員長の牧野直隆・日本高校野球連盟会長は「走者がいる時、作戦として敬遠することはあるが、無走者の時には、正面から勝負して欲しかったと語った。この日、1度もバットを振ることなく、松井秀喜は伝説になった」。

このシリーズは星稜で松井のチームメイトだった福角元伸が担当します。



試合後、整列する星稜の選手たち



敬遠後メガホンなどが投げ込まれた